

# 洪浩然の墓

洪浩然（号は雲海・一五八二～一六五七）は、朝鮮国の「慶尚道山陰」（現韓国慶尚南道山淸郡）の出身で、一五八二年に晋州（現韓国慶尚南道晋州市）の「官人の子」として生まれました。

文祿の役勃発の翌年、文祿二（一五九三）年四月の晋州城の戦いの際に、鍋島直茂軍によって捕らえられ、佐賀に連行されました（当時十二歳）。その後、直茂・勝茂父子に仕え、長じて京都五山で数年間学び、帰佐後は御印役（藩主の印を管理する側近）の志波喜左衛門、茶人の藪内紹智らとともに、書家・学者として勝茂の側近くに仕えました。晩年に、朝鮮国への帰国を勝茂に頼み出、一旦は許されて帰国の途につきましたが、唐津境で呼び戻され、帰国を断念しました。

明暦三（一六五七）年三月二十四日に勝茂が江戸で死去すると、四月八日、その報に接した浩然是、この阿弥陀寺で追い腹を切りました（殉死）。その直前に、上今宿の自邸で「忍 忍則心之宝（忍ぶはすなわち心の宝）不忍身之殃（忍ばざるは身のわざわい）洪雲海浩然七十六歳書之（印）」と書をしたため、子の六郎兵衛（二代当主洪安實）に与えました。

洪浩然是、現在では書家としても評価されており、文字の書き出しと止めの部分などが力強く大きくなる独特の書風から「こぶ浩然」とも呼ばれています。浩然の書は、頂法寺本堂（六角堂・京都市）の寺号木額や英彦山神宮（福岡県添田町）の銅造鳥居、興止日女神社（佐賀市）・徳善院（佐賀市）の石造鳥居などに刻まれています。



洪浩然画像（複製一軒氏所蔵）



洪浩然書「忍」  
（佐賀県立名護聖域博物館蔵）

平成二十一年十二月

佐賀市教育委員会